

**平成 27 年度
自己評価報告書の概要**

平成 28 年 2 月 22 日

御茶の水美術専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	2
基準 2 学校運営.....	3
基準 3 教育活動.....	4
基準 4 学修成果.....	5
基準 5 学生支援.....	6
基準 6 教育環境.....	7
基準 7 学生の募集と受入れ	8
基準 8 財務	9
基準 9 法令等の遵守.....	10
基準 10 社会貢献・地域貢献.....	11

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	平成 27 年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>【教育理念】 「世界に文化で貢献する」</p> <p>1955 年の創立以来、「世界に文化で貢献する」という基本理念を、学園運営の戦略及び戦術に至るすべてに一貫することを旨としている。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインとアートという文化教育を通じて、卒業生各自がそれぞれの人生を豊かに生き、これを通じて将来の日本、そして世界でクリエイティブを持って活躍し、人類を豊かに出来る人材の育成に尽力し続けることを目標としている ・ビジュアル・コミュニケーターとして、人と人との交流に重きを置き、交流の中で生まれてくる考えかたをビジュアライズし、そのビジュアルを中心に据え「人類と世界と日常を、アートの持つ本質的な問題発見を繰り返し行い、企画、商品開発を通じてよりよくデザインできる」クリエイティブな人材育成を目指している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目標達成に向け、「職業実践専門課程」に準拠して、企業等との連携を深め、より実践的な専門教育を推進する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 企業等と密接かつ組織的に連携して教育課程を編成するため、教育課程編成委員会を実効あるものとして着実に運営する。 ② 企業等と連携した演習・実習等をより充実していく。 ③ 教員に必要な実務上の知識・技術・技能や指導力の修得・向上の研修についても、企業等と連携して組織的、体系的に実施する体制を確立する。 2. 自ら実施する自己点検と外部委員で構成する学校関係者評価委員会を両輪に、教育体制や学校運営体制等を継続的に点検、改善していく PDCA サイクルを適切に運営する。 3. 今年度は学園創立 60 周年にあたり、創立趣旨等の原点をあらためて考察し、今後の教育目標や教育方針の礎とする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業実践専門課程で求められる企業と連携した教育課程編成、演習・実習等の実施、教職員研修を確実に実施した。 2. 教育課程編成委員会では、今年度から変更した学則に基づくカリキュラム編成とその実施状況を報告し、さらに内容の改善・拡充について意見をお聞きした。また、文科省の中核的専門人材育成の委託事業に参加し、新しい教育プログラム・教材の開発を行った。 3. 自己点検は私立専門学校等評価研究機構の評価基準一覧表にある全 292 項目の現状を評価し、今後の課題、改善方策を記述した。それに基づく今年度の取組みと現状を 10 の大項目にとりまとめ、学校関係者評価委員会に諮り、今後の取組みについて意見をいただく。 4. 学校関係者評価委員会の報告や所定項目の基本情報につき、ホームページ等で開示する予定。 5. 平成 27 年 12 月の学園創立 60 周年に向け、創立者の軌跡や設立趣旨を紐解き、原点を再確認するとともに、学園軌跡をアーカイブ化して記念展を実施、HP に公表した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会を通して、カリキュラム編成や学校運営全般を常に見直し、永続的な改善を図っていく。 ・自己点検結果から、取り組むべき課題を抽出し、すぐ取り組むものや複数年かけて計画的に取り組むもの等を区分けし、一步一步着実に改善に向けて取り組む。 ・「世界に文化で貢献する」理念のもと、「よく観ること」を基本として「観えたこと」「考えたこと」を描ける人材の育成をこれからの教育目標に掲げ、その実現に向け、カリキュラム編成や運営指針等に反映していく。 ・学園軌跡のアーカイブ化はこれからも継続的に取り組む。 ・文科省の中核的専門人材育成の委託事業には、次年度も積極的に応募する。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 教育理念 1955 年以来「世界に文化で貢献する」という学園理念に基づいて、服部学園のすべての事業は運営されている。この理念を実現するクリエイティブな人材を、美術教育を通じて育成することが学園運営の目的となる。</p> <p>2. 育成人材像 社会において求められる人材、企業における採用人材必要性の重点はコミュニケーション力となっている。クリエイティブ教育における「観察力のある情報インプット、コンセプトワークなどの情報編集力、ビジュアルなどで伝えることのできる情報アウトプット力」等は、そのどれもがコミュニケーション力を開花させるのに有効であり、社会の必要性にも合致する。</p> <p>3. 特色ある教育活動 「人間は多くの事象を視覚的に理解できている」と言う前提の視点が、現在の企業活動の限界を生み出している。中途半端な理解に、中途半端な知識を加算するという教育体系で育った企業人に対して、常に「必要な情報を得ていないことを見極め、これから必要となる情報を洞察する」ことを出発点としたクリエイティブ能力を身に付ける、服部学園オリジナル開発のリーダー視点教育「ゼロワークカリキュラム」を恒常的に進化させながら実施している。</p> <p>4. 将来構想 日本社会のニーズは、日本独自の文化潮流の把握と、その個性を前提として、異なる多様な世界といかに調和し貢献できるかにある。文化は、それぞれの土地における歴史時間に育まれた異なる視点（考え方）なので、リーダー視点教育は学校教育ばかりではなく、企業人材開発研修にも重要となる。すべての人にアートとデザインを開いていくことが将来構想となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は学園創立 60 周年にあたり、創設者の軌跡、設立趣旨等の原点をあらためて考察し、その結果、「よく観ること」を基本とし、絵を「上手」「下手」の価値観に閉じ込めず、「観えたこと」「考えたこと」を描ける人材の育成を目標とし、「世界に文化で貢献する」教育理念をより強固な信念として引き継いでいくことを再確認した。 これは昨年 12 月の記念展で発表し、学園ホームページにも公表した。 ・学校法人服部学園では 3 つの学校が運営されている。御茶の水美術専門学校の他に、芸大美大受験の御茶の水美術学院、社会人のための OCHABI アートジムがある。何れも「世界に文化で貢献する」という明確で揺るぎない理念に基づいた運営となっている。 ・御茶の水美術専門学校（以下、本校）は企業への就職活動のみを目標としているのではなく、社会人となってからスムーズに力を発揮できること、そして実力を効率的に身につける生涯学習の方法を自分で発見し実践できる「視点＝考え方」をカリキュラム化した。そのために 3 年制デザインアート科 1 科と、4 年生高度イラストレーション科 1 科のみの構成となっている。 ・3 年制、4 年制共に、リーダー視点教育であるゼロワークを学ぶ。常に何も分かっていない、先入観を持たない視点を出発点として、自分で感じた新鮮な情報をインプットし、情報整理し、情報アウトプットするという「情報の流れ」を身に付ける。 ・情報の流れで見つけたデザインコンセプトを表現したいメディア（3D 物、2D 物、映像、モニター物等）に表現するスキルを同時に身に付ける独自のカリキュラムとなっている。したがって美術を学ぶ場合は、本校か他校かという選択方法になる。

基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 運営方針 「世界に文化で貢献する」という理念に沿って、「社会にクリエイティブで貢献できる人材を、美術教育を通じて育成する運営方針となっている。</p> <p>2. 事業計画 理念の達成のために、美術教育によって本質的にクリエイティブ能力を有した人材を広く育成するために、リーダー視点教育「ゼロワークカリキュラム」の開発を企業との相互連携を構築し運営している。</p> <p>① 企業研修等と学校カリキュラムの恒常的な進化を統合して、より広範な誰もがクリエイティブ能力を身に付けられるスタンダード・カリキュラムの開発を計画的に推進する。</p> <p>② ゼロワークカリキュラムを動画化したシラバスを計画的に推進する。</p> <p>③ ネットを活用し、上記カリキュラムをどこにいても誰もが学べるデジタル学習環境として計画的に構築する。次にはどこの国でもを目指す。</p> <p>3. 運営組織 企画広報部と総務部は、専門学校のほか、学校法人服部学園が運営する御茶の水美術学院と OCHABI アートジムを合わせ、学園全体の業務を担当しているが、教務部・指導部・進路指導部は専門学校固有の組織として、専門学校の運営方針に沿って事業計画の遂行に専任している。</p> <p>4. 人事・給与制度 本校の職員は全員契約社員としての雇用契約であるが、就業規則・給与規程・休職規程・介護休職規程を策定し、運営している。</p> <p>5. 意志決定システム 意思決定は、少額の支払い決済以外は学校長決裁となっているが、決裁に当たっては、学園全体の運営会議、専門学校の管理者会議・職員全体会議等で十分に審議した上で行っている。</p> <p>6. 情報システム 教職員のグループウェアシステムにサイボウズを導入し、学内通知やスケジュール管理等、学校運営上必要な情報共有と業務の効率化を図っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年制のデザイン・アート科、4年制の高度イラストレーション科とも、その教育プログラムの構築コンセプトは、ゼロからはじめてプロになるためのロジカルで効率の良い「ゼロワーク」にある。 ・ 「ゼロワーク」には企業人となる準備としてチームワークを重視する通年のコミュニケーション授業と、起業人となるための準備としてのキャリアデザインの2本柱となる。優れた企業人は起業人の気概を持つ人材であると考え学生は両方ともに学び才能を開花させれば在学中から社会デビューを果たせる体制となっている。 ・ 3つの学校はそれぞれ独立した運営目的を有しているが、カリキュラムに関しては相互にシナジー効果が望める体制となっている。

基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 目標の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「世界にクリエイティブ能力で貢献できる人材の育成・輩出」の理念に沿って、3年制デザインアート科、4年制高度イラストレーション科のカリキュラムが編成されている。 ・ゼロワークは、これから社会における情報伝達の主力となる映像、フォトグラフ、WEB、グラフィックデザイン、プロダクトデザイン等を「考える」「つくる」「伝える」「うる」という企業4活動として、通年のコミュニケーション授業で一貫したフローとして、学年ごとの到達レベルテーマに沿って学んでいる。 <p>2. 教育方法・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年制デザインアート科及び4年制高度イラストレーション科の1年次の達成目標は、「考える」「つくる」「伝える」「うる」という企業の基本4活動の理解。また企業活動におけるクリエイティブ活動の必要性を理解するためにチームによる企画デザインを行う。 ・2年次においては企業4活動と自らの起業4活動を連携し、自分が目指す想定企業に向けてオリジナル作品をデザイン制作することが目標となる。 ・3年次においては自らの社会デビューに向けて企業への就職か起業かという自己目標を定め、そのクリエイティブ活動を行う。 ・4年次は目指す企業が課題とすることのソリューション企画をリアルなクリエイティブ提案で行う。 <p>3. 成績評価・単位認定等</p> <p>成績評価は全校舎を使用してのプレゼンテーションにより一担任ではなく、社会の実情に近い複数講師による評価制度を取っている。</p> <p>4. 資格・免許制度の取得の指導体制</p> <p>資格主義ではなく、作品の室による実力主義をとっている。企業への質の高いポートフォリオ制作が目標。在学中からクリエイターとして自分を商品化し社会へ発信することを指導している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は、主に実社会で実活動を行っている方々で組織している。 ・教員を中心に年度ごとにカリキュラム開発に取り組み、質の向上を図っている。 ・また、昨年度に引き続き、文部科学省の中核的専門人材育成にかかる委託事業に応募し、受託した。 企業や有識者、高校教諭等と連携して、新しい教育プログラムや教材などのカリキュラム開発・研究を行い、その実効検証を行うとともに、事業を通じて教員の研鑽活動も継続して行った。 ・指導部長などの階層により、指導責任体制を取っている。

基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 就職率 就職に関する組織が強化され就職率の向上が図られている。毎年の就職率はホームページに公開している。</p> <p>2. 資格・免許の取得率 資格・免許の取得率の向上については、進路決定と資格取得の相関が薄い ため、具体的な取り組みは行っていない。しかし、時代・業界の要請を 注視しつつ柔軟な体制を整えておく必要があると認識している。</p> <p>3. 卒業生の社会的評価 卒業生の就職先の企業レベルが毎年上がっている。姉妹校である OCHABI アートジムによる企業研修と相まって、本校卒業生は、企業ニーズに沿っ た人材であるとの評価を受けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン分野の就職先は、通常全国平均 9 人以下で構成されるプロダクト やグラフィックといったデザインプロダクションが中心と考えられている。 ・しかし作今の経済状況では、こうしたデザインプロダクションが新卒を採 ることは難しい。新卒よりは直ぐに仕事のできる高度キャリアを持つ人材 を必要としている現実があるからだ。 ・他方で企業においては、「つくる」(商品デザイン)、「つたえる」(広告販促)、 「うる」(ショップ)、「しらべる」・「考える」(マーケティング)の企業にお ける基本 4 活動のすべてのジャンルで、アイデアを可視化できる「描画力」 を持つデザイナーが必要となっている。時代はビジュアルでコミュニケー ションできる人材を必要としている。 ・企業では、毎年若返りを行わなければ生き残ることが難しい。このためア イデアを可視化できる、また可視化によってコミュニケーションできる人 材が期待されており、それに向けた人材開発カリキュラムの目標を設定し ている。結果として、卒業生の評価も年々高まってきている。

基準5 学生支援

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金制度の説明会の開催、相談窓口の設置、本校独自の奨学金制度の整備を行い、学生の経済的支援を実施している。 ・近隣の学生寮の紹介、本校の対象とする業種のアルバイト紹介等を行い、充実した学生生活が送れるよう支援している。 ・医務室の整備、学校医の招聘、近隣医療機関との連携等により、学生の健康管理と医療支援を行っている。 ・本校独自のメールアドレスを発行し、WEBを利用した迅速な情報提供を行い、就職活動の支援を行っている。 ・進路情報スペース、相談室を整備し、学生個々での情報収集の支援を行い、就職へと結びつけている。 ・本校卒業後も前述のSNSを利用して、情報提供を行い、就職活動の支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の奨学金制度を設けている。 ・学生全員に本校専用のメールアドレス・アカウントを付与し、学校からの通知や学校への報告等、相互連絡に活用している。 ・学生支援、求人情報等の閲覧用スペースを確保している。 また、本校公式HPにおいて学生の課外活動の告知を行っている。 ・学校周辺には大型医療機関がつぎのとおりあるが、一番近隣の三楽病院とは緊急時や時間外の診療等について支援体制の確認を行っている。 東京都教職員互助会三楽病院、駿河台日本大学病院、東京医科歯科大学医学部附属病院・歯学部附属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、佐々木研究所附属杏雲堂病院、浜田病院 等

基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、校内全域に無線 LAN のアクセスポイントを配置し、学生が各自のノートパソコンで Free に様々な作業が出来る環境を整えている。一方で、学校サイドとしても、徐々にデスクトップ PC からノート PC への切り替えを進め、場所を限定しない業務遂行を可能にする等、効率化を図っている。 ・今後は無線 LAN をより有効に活用するため、学生のスキルアップを図る必要があり、また、アクセスの集中等により接続が不安定になるようなケースがないよう、安定的な稼働に向けた必要な対策を講じる。 ・学外実習は、企業等と連携した授業や地域・社会への作品提供・提案活動等を実施しており、就職活動の一環としてインターンシップへの参加についても積極的に支援している。 ・学生に国際交流と国際的な感覚を身に付ける機会を与える場として、希望者を募り海外研修を実施しているが、政情不安等の国際情勢によっては実施できないこともあり、定例行事とするのではなく、年ごとに状況を判断して実施している。 ・本校 1 号館は 2007 年に建築基準に沿った耐震構造で建替え、合わせて既存 2 号館・3 号館も耐震構造のチェックを行い、必要な耐震補強を行っている。 ・災害時の対応体制については、2011 年の震災以降、再確認の上、防災訓練や災害時の緊急放送体制等を見直し、また、デスクトップ PC や石膏像・モチーフ等の落下防止措置の徹底、備蓄の充実等を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学生に安価な購入機会を斡旋した上で、ノート PC の購入・持参を義務付けている。 ・各自のノート PC には共通してつぎのようなソフトウェアを装備することにより、学習効果を上げることが出来る。 「Word」・「Excel」・「PowerPoint」、「Photoshop」（レタッチ、写真の加工等）、「Illustrator」（グラフィックデザイン）、「InDesign」（エディトリアルデザインソフト）、「Premier」（映像編集ソフト）、「AfterEffect（映像特殊効果）」、「Flash」（アニメーション作成）、モリサワフォント（書体）。 ・本校は天井高 4M 強の広いギャラリースペースを有し、様々な発表会で道路側を全面開放、地域の方々や、千代田区在勤在学の方々に自由に閲覧していただける開かれたキャンパスを実践している。

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 学生募集</p> <p>本校は、独自に追及したオリジナル性が高いリーダー視点教育プログラム（リーダーの考え方教育）があり、他校と袂を分かち多くの独自の特徴がある。</p> <p>① 高校生に本校のクリエイターになるための質の高い授業を複数のゼロゼロワーク授業として無料公開している。</p> <p>② 文科省の委託事業である「リーダー視点教育カリキュラム教材」を全国の高校に配布し、高校での美術教育並びにキャリアデザインに役立ててもらっている。</p> <p>③ 関東1都3県の高校を中心に学校訪問し、デザインの力を高校生が実感できるように、「中学生にアピールできる自分の高校ポスター」のデザイン模擬授業を通じてクリエイティブの仕事体験させている。このポスターは高校教諭へのデザイン力の理解にも役立っている。</p> <p>④ 高校生の80%以上が所有するスマホによる本校の紹介と体験への申込みを構築している。</p> <p>2. 入学選考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生が自分の進学先を落ち着いて把握できるように、デザイン専門学校では唯一AOを実施していない。 ・入試試験選考日程を細かに区切り、入学者の面接等を通じ厳格な選考を実施している。また、入学実績を常に分析し、毎年行われるカリキュラム開発に反映している。 <p>3. 学納金</p> <p>適切な経費に照らし合わせ、他校との比較もしつつ学費の設定を行っている。入学辞退者には授業料の返還など適正な対応を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインアート科3年制と高度イラストレーション科4年制の2科が安定的に運営されるようになった。特に高度イラストレーション科4年制は、一般大学2年修了生、短大卒業者、他の専門学校卒業者にとっては、編入学制2年でクリエイターをゼロから目指せる効率的な科として脚光を浴びている。 ・高校生やデザイン経験のない社会人に向けた、公開授業「ゼロゼロワーク」を受ける受講生が毎年増加している。ゼロゼロワークによって受験者のミスマッチが減っている。また新年度の授業スタートが高いレベルからスタートすることが可能となった。 ・

基準 8 財務

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 財務基盤 厳しい募集環境が続く中、入学者数は漸減しているものの、特徴のあるカリキュラムと充実した教育内容と実績により、教育内容を維持、向上できる一定の入学者数は確保しており、学費収入は安定している。</p> <p>2. 予算・収支計画 ・毎年、収支予算を策定し、評議員会に諮問した上で、理事会にて審議、決定している。 ・収支の状況を期中で随時把握しながら、収入に応じて弾力的な支出の執行管理を行っており、毎年、安定的な収支を確保している。</p> <p>3. 監査 ・収支報告は法令に基づく監事の監査を受け、予算同様、評議員会に諮問した上で、理事会にて審議、決定している。 ・同時に、任意で期中と期末に監査法人の監査を受けることにより、内部統制と財務処理の適正性に関するチェックを補強しており、また、理事長と監事・監査法人の意見交換を毎期実施し、健全かつ適切な財務運営に努めている。</p> <p>4. 財務情報の公開 ・期末の財務諸表については、運営法人である服部学園全体で作成しているが、外部から要請があれば校内で閲覧できる体制を整えており、また基本情報としてホームページに開示している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会計業務は外部ソフト「勘定奉行」を導入しており、また、給与・税金・社会保険料の計算・支払、決算業務等については、菅納会計事務所に業務を委託している。経理担当者が行う日々の出納事務と計上業務については、会計事務所で二重にチェックできる体制となっている。 ・本校は法令上、監査法人の監査を受ける義務はないが、毎年、任意で監査法人トーマツの監査を受けている。

基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none">・法令等の遵守については、本校の最優先事項として取り組んでいる。一方、各職員・講師職員の一人一人への教育や浸透という面においては、日々の継続的な指導と教育が必要と考えおり、今後とも継続して最優先事項として注力していく。・学生は十代の女子学生が大半であることもあり、個人情報の取り扱いには特に厳格な指導と注意が必要と考え、取り組んでいる。学生の個人情報については、データ保存する専用のサーバーを設置し、アクセスできる職員も限定して管理している。・情報管理等のソフト面、施設・設備等のハード面、併せて引き続き最優先事項としてその遵守に努める。・自己点検・評価については、学内の課題の明確化とその改善取組みの有効手段と認識して取り組んでいる。学校関係者の方々に自己点検を評価いただき、学校関係者評価として公表する体制としている。・また、教育情報の情報については、基本情報のガイドラインに沿ってホームページで公開している。	<ul style="list-style-type: none">・学校の保守・保安については、2007年に校舎の全面リニューアルを行い、学生および教職員の安全を守るため一層の充足を実現させた。

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<ul style="list-style-type: none"> ・「文化で世界に貢献する」から必然的に導かれた本校の大きなテーマとして、地域への貢献、社会・企業への貢献、高校教育への連携貢献がある。また、社会貢献の方法も、美術教育を行う本校では、デザインやアート能力を発揮する形で地域や社会に貢献することを実践している。 ・授業自体が実在する企業の問題解決を実践するよう編成されており、これにより学生は、社会貢献を現実的な視野からも理解し実践している。今年度は、千代田区役所、ミズノ株式会社、株式会社オートバックスセブン、コンビニ株式会社、株式会社竹尾、株式会社サイバーエージェント、丸善株式会社、株式会社ロッテ、株式会社 J R 東日本企画、株式会社資生堂、株式会社 LIXIL が協力している。 ・企業研修活動を通じて多くの大手企業とのタイアップや千代田区役所や淡路町開発、御茶の水エリア開発、三井ビル開発との提携イベント「大人の美術くらぶ」、また地元町内会など、地元コミュニティへも積極的に参画している。 ・2011.3.11 より 1 年後から、陸前高田市民と協力しながら、デザインによる復興支援活動を継続して行っている。これにより多くの学生が陸前高田市民との交流を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会・地域への貢献、またボランティア活動として次のような取り組みを実施した。 ①千代田学にて区と市民の双方向的コミュニケーションについて提案した。 ②陸前高田市へのデザインによる復興支援として、陸前高田市の観光ロゴの贈呈、複数の個人営業主へロゴデザインの提案を行い、採用後もこれを活用する方法を市民と共に考え実行している。 ③千代田区の富士見わんぱく広場にて実施されたアートフェスティバルにてボディペインティングのボランティアに参加した。 ④千代田区のビジネスビル、ワテラスコモンにある「Rin」で開催されただるま絵付けに協力し、無償で展示に参加した。